

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員名札に「理念」を保持し意識して業務に臨むようにしている。事業所の広報誌やパンフレットに理念を掲げ理念の実践に取り組んでいる。また理念に基づいた介護計画でサービスを提供している。	事業所内に理念を掲示し、職員の名札の裏にも理念が書かれており常に理念を確認しながら業務を行なうことが出来るよう取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	クラブ活動や施設主催の行事に地域住民の参加がありまた地域の行事に参加し交流するよう努めている。日常的に挨拶・言葉を交わしている。同一法人内の利用者や保育園児との交流も日常的に行われている。	ボランティアの受け入れも多く、地域の方が参加出来る行事もあり、日常的に交流が行えるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方がクラブ活動に参加、施設の行事を楽しみにされ、参加されている。地域包括と共に認知症研修を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現況、活動や取り組みを報告し指摘や意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一回定期的に開催されており、市・地域包括・家族・利用者・職員等が参加し現状や活動内容を報告し意見などを聞きサービスの向上に活かされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	推進会議に行政の参加があり、必要に応じて市や地域包括支援センターの職員との情報交換や交流を行っている。施設の行事に参加して頂き協力関係を築いている。認知症施策に協力している。	連絡会などで情報交換や交流を図り協力関係を築き、また施設の行事にも参加するなど常に連携が取れるよう取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいます	身体拘束等適正化の為に指針を作成、身体拘束排除の為に取り組みに関するマニュアルや研修があり、全ての職員が正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者は園内自由に移動されている。	委員会を設置し、定期的に会議や研修を行いマニュアルを作成し、身体拘束をしないケアに向け職員全体で取り組んでいます。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルや研修の機会がある。介護現場で常に注意を払い防止に努めている。言葉による虐待は見過ごされがちなため職員同士不適切な言動が無いか意識し防止に努めている。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内において権利擁護に関する研修の機会がある。制度を活用された利用者がおられた。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設を見学、書面による説明を経て納得されてから契約の締結をしている。退所時は方針を決定する為の情報提供、相談に応じている。改定の際は説明会、又は書面にて理解・納得を図っている。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談・苦情受付担当や外部機関への通報先を明示し契約時に説明している。面会時や家族会の際意見や要望を聴き運営に反映できるよう努めている。又玄関に意見箱を設置している。	面会時などに日頃の様子をお知らせすると共に意見や要望を聞き取り、また玄関にも意見箱を設置し積極的に運営に反映出来るように努めています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	部署会議、連絡会議、職員会議にて職員の意見を聴き運営に活かしている。代表者や管理者と職員が話しやすい環境となる様努めている。	会議で職員の意見を汲み取り運営に活かすと共に上司と話しやすい環境づくりにも取り組まれ日常的に意見を聞き運営に反映できるよう努めています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員の勤務状況を把握し向上心を持って働けるような職場作りを心がけている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、認知症研修を始め年間を通じ研修を行っている。施設内・施設外研修参加者は必ず復命書を提出、評価を行いかつ伝達研修を実施している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	日本認知症グループホーム協会に加盟、同業者と交流・意見交換を行い、研修にも参加している。市内の地域密着型事業者連絡会にて地域の同業者と更なる交流に努めサービスの質の向上の為の情報交換を行っている。		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前情報収集を行い、かつ本人・家族との面談で本人の意思確認や要望・考えを聴き取りケアプランの資料として用い本人の望む生活が出来る様に努めている。不安時は訴えを傾聴、要望を受け入れる様努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み時・契約時、家族の思い・希望を十分に聴き取り受け止める様努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談時すぐに施設入所を勧めるのではなく、医療的ケアや精神症状、集団生活への適応等考慮、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴を鑑み、食事・おやつ作りや洗濯物畳み・園芸等共同作業を通じて一緒に生活しているという関係作りをしている。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活状況を家族に報告し今の状態を共有し、共に支援していく関係を築く様努力している。毎月広報誌・一言コメントを送付している。 ご家族に園の行事に参加して頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	医療機関や馴染みの美容院、お墓参り家族の見舞い、温泉等支援委勤めている家族・知人等と電話・手紙での対応も配慮している。	馴染みの美容院やお墓参りなど、ご家族の協力のもと行かれたり、また知人との電話や手紙のやり取りを行うことでそれまでの関係が途切れないよう支援されています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにおいて、作業やお茶タイム或いは行事やクラブ活動に参加することで利用者同志、コミュニケーションを図り共に生活しているという一体感を感じて頂けるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている 入院終了となった場合でも電話や面談時に相談に応じている	

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の資料、本人・家族の情報により本人の生活様式を把握し本人の望む生活に近づける様に努めている。又施設内では危険の無い限り本人本位に検討している。	日頃の関わりの中でご本人の思いや意向の把握に努め、「あなたの出番表」を作成しその人らしく生活が送れるよう支援されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時に資料収集、本人・家族からの情報にて把握に努めている。馴染みのある家具や使い慣れた寝具等使用して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や入居後の日課、ADL、残存能力を把握し「あなたの出番」を作成、職員が総合的に把握する様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人及び必要な関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成、状態の変化や必要に応じカンファレンスやモニタリングを行って見直しをしている。	ご本人やご家族の意見や希望、アセスメントや日々の記録をもとに、より良く過ごせるために職員間で話し合われ、現状に即した介護計画を作成しています。また面会時にご家族へ説明し同意を得られています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・気づき等個人記録に記載、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人のクラブ活動や行事に家族と共に参加、施設所有の畑での園芸活動や個々の能力に応じた作業に従事等柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	クラブ・行事にボランティアや民生委員の参加、地域の商店・美容院、警察による施設周辺の見回り、消防署との連携による防火・避難訓練等協力を得て支援している。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を受け入れ、今迄のかかりつけ医の受診や事業所の医師と相談の上症状に応じた医療機関に受診、適切な医療を受け入れられる様支援している。	受診はご本人やご家族の希望を聞き対応されています。また、疾患に応じて適切な医療が受けられるように支援されています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	職場内に看護職の配置があり健康管理に努めている。 事業所内診療所と連携、適切な受診や看護を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時必要な情報交換を行っている。 入院中は頻回に病院を訪問し家族との相談や病院関係者と情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階からかかりつけ医と相談、本人や家族が方針を決定する為の情報を提供している。併設する法人とも連携を図り、安心して納得した最後を迎えられる様取り組んでいる。	入所された時からご家族と終末期について話し合い、ご本人やご家族が安心して最後まで生活が出来るように法人とも連携を図りチームで支援されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故の発生等緊急時の対応マニュアルや緊急時の連絡体制を整備している。 研修の実施記録がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時のマニュアルがある。 併設する施設職員、近隣の人を含めた連絡網があり年2回の避難訓練にも協力体制を築いている。 緊急時用利用者ファイルを整備している。	非常災害時マニュアルも多種多様に作成され、それぞれの災害に応じて訓練もされています。また、ホームにて非常食や備品が準備されています。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方言を大切にしつつやさしく丁寧な言葉かけを心かけている。日々の支援の中で誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心かけている。	方言を大切にしつつ、自己決定がしやすい言葉かけやプライバシーを考慮した声かけがされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望、生活歴を考慮「あなたの出番」という役割表を作成し支援を行っている。その都度希望を聞き対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、利用者一人一人の希望や状態、体調を考慮した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や髪型等本人又は、家族の希望に添う支援を行っている。希望に応じて訪問又は馴染みの理容・美容院を利用されている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に応じ、職員と一緒に調理・盛り付け・配膳・片付け等楽しく食事が出来る様工夫している。家庭菜園で収穫した野菜を献立作りに活かしている。	ホームで収穫された野菜を利用者と調理されたり、おやつ作りにも力を入れています。また、職員も一緒に食事を楽しみ水分等の摂取にも工夫されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	栄養士、看護師と相談しながら対応。水分摂取には言葉かけを工夫、1日1500ml以上を目標としてきめ細かく対応している。飲食量が少ない時は本人の嗜好にも配慮、おやつや次の食事を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態に応じて毎食後声かけ或いは介助にて口腔ケアを行っている。毎週歯科医、歯科衛生士が来園、口腔ケアの指導を受けている。		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄間隔を把握、情報共有し、声かけトイレ誘導を行い、日中は全員おむつを使用せずトイレでの排泄を支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握しさりげない声かけを行ない、トイレでの排泄を大切に支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェック、個々の便秘の原因を探り自然排便を促す工夫をしている。牛乳・ヨーグルト・お茶等水分補給、おやつ工夫、毎朝の体操や運動系クラブ、散歩等で体を動かす働きかけをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	蓬・ドクダミ・菖蒲風呂等工夫、施設内の温泉にも出かけている。一人一人の希望で毎日でも入浴が可能である。温泉を利用した足湯も楽しんでいる。	ホームだけの入浴ではなく、法人内に温泉があり、色々な入浴方法を楽しんでいます。また、希望に応じてほぼ毎日でも入浴対応されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握している。一人一人の生活習慣や体調に応じて午睡等考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表がある。一人一人が医師の指示通り服薬できるように支援し症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの思い、希望、生活歴を理解し、「あなたの出番」を作成、支援している。その都度希望を聞き対応している。本人の好きなビール、コーヒーも飲んで頂いている。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	法人敷地内を自由に散策して頂いている。希望を把握しショッピング、散歩、お花見、旅行等家族やボランティアの人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	法人の敷地が大変広く利用者と共に花や野菜・果物の手入れをされています。また、ご家族と共に旅行に出かけたりショッピングも楽しまれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングの際本人の希望や力に応じて財布を持参、支払いをされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	自ら作成した絵手紙や手紙を送る際支援している。ご家族や知人から本人宛てに電話や手紙があり配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節に応じ生け花やクラブでの作品、日常の写真等展示している。空調管理に留意し快適に過ごせる様配慮している。	窓から庭が見え、季節を感じることが出来ます。利用者の昔の作品やクラブ活動の作品などが展示され暖かみのある共有スペースとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファや椅子を設置し一人で過ごせる空間や気の合った方との語らいの場を作る工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れたものや趣味が発揮出来る様居室の中に取り入れ今迄と同じ様に居心地よく過ごせる様工夫している。（筆筒・ぬいぐるみ・座椅子・テレビ・写真等）	居室には馴染みの物が置かれ、家族とやり取りされている手紙などがさりげなく置いており窓も大きく明るく落ち着いた部屋になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札をつけ混乱を防ぐようにしている安全に過ごせる様配慮している。張り紙を工夫し安全に過ごせる様配慮している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない